

## 平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

創立以来かかげる「六綱領」(自主・自律・堅忍・果敢・創造・開発)を基に、生徒の個々の夢を実現させる教育活動を実践し、社会人として自立でき、地域や社会に寄与する人材を輩出する。厳しく寄り添い、生徒・教職員がともに学び、ともに伸長することにより、「生徒・教職員にとって、楽しく伸び伸びと力を発揮でき、夢の実現に主体的に活動できる学校」、そして、地域との交流・連携を推進することにより、生徒・保護者・地域から愛され、信頼されるとともに、「地域に学び、地域とともに歩む学校」をめざす。

夢を育み自立できる生徒を育成する学校 ~ キャリア教育・学習指導の充実 ~  
生徒の持つ能力を掘り起こし、生徒の資質を磨き上げながら、「将来の夢について、自身で、自信を持って語ることでできる若者」を多く輩出できる教育活動を展開する。

厳しく寄り添いながら生徒を指導・支援できる学校 ~ 生徒指導・支援体制の拡充 ~  
様々な課題を抱えた生徒一人ひとりに対しての関わりを深め、保護者・地域・中学校との連携を強めながら、できる限りの支援や指導を行う。さらに教職員個々が生徒の教育者であり、且つ、“生徒の応援者”としての機能を十分に発揮できる教育環境を構築する。

地域とともに歩み、地域に愛される学校 ~ 地域連携の深化 ~  
地域との連携を密にし、地域の豊かな自然環境や人材・施設等を活用した教育活動を展開し、地域力を積極的に取り入れながら、生徒の「豊かな心」、「生きる力」、「自尊感情」、「規範意識」を育成する。

### 2 中期的目標

1 「確かな学力」と「学び」への主体性の育成

(1) 新学習指導要領や高大接続改革を踏まえ、「基礎学力の向上と定着」「思考力・判断力・表現力等の育成」「主体的で対話的な深い学び」をめざした授業改善を行う。

ア 数学・英語において「習熟度別少人数展開授業」を実施する。生徒の実態に応じた「わかる授業」を展開し、進路に応じた選択科目を設定することで、授業・学習に興味・意欲を持つ生徒を増やす。また、教職員相互の授業見学・研究授業、および授業アンケート結果の活用等をとおして「授業改善」を図る。  
生徒向け学校教育自己診断の授業理解度を3年後には80%とする。(H30...69%)

イ 図書館を学校での学びのセンター的機能を持つ場と位置づけ、本に親しむ場、自学自習できる場、調べ学習や調べたこと・学んだこと・考えたことを発表できる場としての環境整備をすすめるとともに、その利活用の推進を図る。  
図書館利用者数を3年後には年間2700とする。(H30...2078人)

2 生徒支援体制の整備と充実化

(1) 将来の自分の生き方を設計できる力をつけることがキャリア教育であると考え、全ての教育活動をこの観点を踏まえ実践する。また2022年度からの成人年齢の引き下げを見据え、「総合的な探究の時間」とLHR等を活用し、キャリア教育や人権教育・道徳教育等を総合的に実施し、美原の志学を確立させる。

ア 授業、学校行事・HR活動・生徒会活動・部活動等全ての教育活動を「自立した社会人を育てる」という観点から組み立てる。そのために入学から卒業までの3年間を見通した指導計画を策定する。外部人材や地域・施設の活用を積極的に取り入れ、地域に貢献できる人材を育成するよう努める。特に1年生に対して、進路に対する明確な意識を持たせることができるよう指導する。

イ「総合的な探究の時間」「LHR」を中心に、3年間を見通した人権教育・道徳教育の指導計画に則り、人権意識の向上を図る。課題を抱える生徒の情報について学年、人権教育委員会、支援会議で共有できる体制を作る。  
進路未定率を限りなく0%に近づける。(H30...0%)  
生徒向け学校教育自己診断の進路指導に対する肯定度を3年後には85%とする。(H30年度75%)

(2) 「ええもんはええ あかんもんはあかん」を原則に「厳しく寄り添う」姿勢を貫いた生徒指導を実践する。計画的に生徒理解の研修等を実施することにより意識と質の向上を図るとともに、傾聴と守秘の姿勢で生徒に向き合い、その声を受け止め、生徒理解を深める。

ア 生活習慣の確立を図り、豊かな人間性を涵養するための生徒指導を行う。

(3) 相談室の常駐体制と3Cルーム(Counseling・Coaching・Conference)の活用を図り、生徒が安心して相談できる環境を整備する。また、SCを活用し校内の相談体制を充実させる。支援コーディネーター、支援会議を中心に、中学校や相談機関、医療・福祉等関係諸機関との連携の深化を図る。

(4) 特別活動や生徒会活動を通じて、生徒の自己有用感を醸成し、集団や学校への帰属意識を高める。  
ア 生徒自らが積極的、主体的に取り組む学校行事や生徒会活動、部活動等を展開し、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。  
イ 体育専門コースの充実を図り、活動を地域にも広げ、将来の地域の指導者となりうる人材を育成する。  
転退学者及び留年生の減少

3 地域と連携した安全・安心で魅力ある学校づくり

(1) 地域への広報活動に積極的に取り組み、美原の良さをアピール、入ってよかった学校をめざす。

ア 中学校訪問、学校見学会や学校説明会等のさらなる充実を図り、美原に入りたい生徒を増やす。  
イ HPをはじめICTの活用をさらに進め、広報活動を充実させる。  
生徒向け学校教育自己診断における学校行事の肯定度を3年後には85%にする。(H30年度75%)  
保護者向け学校教育自己診断の保護者への情報提供に関する項目の肯定度を3年後には75%にする。(H30年度66%)

(2) 地域の関係諸機関との連携を密にし、地域とともに歩み、生徒が安全で安心して過ごせる学校をめざす。

ア 地域と連携した生徒の自主的な活動を推進することで、生徒の自己有用感を高める。  
イ 地域と連携して生徒が安全で安心して学校生活を送ることができる取組を推進する。  
ウ PTAや同窓会等と連携して、生徒が安全で安心して過ごせる教育環境整備をすすめる。  
エ 地域の国際交流を推進する団体等と連携した国際理解学習、国際交流活動を推進する。  
オ 外部人材の活用等により、職員の時間外労働時間の縮減をめざす。  
学校教育自己診断における施設・設備に対する満足度を3年後には生徒・保護者とも70%にする(H30年度生徒53%,保護者55%)  
学校教育自己診断における国際理解教育に対する肯定度を3年後には生徒・保護者とも80%にする(H30年度生徒69%,保護者66%)

### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年10月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>全22項目中、生徒では21項目、保護者では19項目、教員では16項目で肯定的回答の割合が上昇した。</p> <p>【学習指導等】 「先生に質問できている」「きめ細やかな指導」「成績のつけ方が十分示されている」「適正に評価している」(いずれも生徒)、「子どもは『授業がわかりやすい』と言っている(保護者)」は、肯定的な回答が5ポイント以上上昇した。これらの項目は、3年前(平成28年度)の結果と比べると、いずれも肯定度が10ポイント高くなっている。教員の結果をみると、「主体的・対話的で深い学びにつながる学習指導を取り入れている」「ICT機器を積極的に活用している」は昨年度比べ、10ポイント以上高くなっている。とりわけ、「ICTの活用」は肯定度が92%となっている。これらの結果から、ここ数年進めてきた教員による授業改善の取組みの成果が、生徒・保護者にも着実に伝わっていることが窺える。「教育課程の編成に学習指導要領の趣旨が生かされている(教員)」の肯定度も5ポイント以上上昇しており、新しい学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり、評価のありかた等の研究をすすめる、授業改善の取組みをさらに深化させていきたい。</p> <p>【生徒指導等】 「先生の指導を理解できる」「適切な進路指導が受けられる」(生徒)の肯定</p>	<p><b>第1回</b>(令和元年6月18日&lt;火&gt;・授業見学後議事進行) ・修学旅行の実施時期、体育大会の実施時期、携帯電話所持、この3点が今年度の大きな変更だったように思われる。この変更はとてもスピード感があり賞賛に値する。 ・落ち着いた雰囲気での授業が行われており、生徒が集中して授業を受けることができている。ICTの導入や教員の工夫が功を奏していると思われる。 ・授業の雰囲気がとても良い。生徒と教員の関係の良さを感じた。生徒の個性を伸ばす授業、生徒が主体的に学ぶ授業、生徒の話し合いの中で学ぶ授業を新学習指導要領の実施までに準備し取り組んでほしい。</p> <p><b>第2回</b>(令和元年11月26日&lt;火&gt;) 体育専門コース野外活動実習 防災教育として他校では見られない先行した良い取組みで、生徒にとって将来のためになる経験だと思う。校内での実施という点で教員の負担減に繋がっている。今後は、近年地域に完成する防災センターの活用も図ってほしい。 新教育課程の編成 探究活動を行うためには基礎学力が必要不可欠。基礎学力の充実に今後も注力してもらいたい。</p>

<p>度は昨年度と比べ5ポイント、3年前と比べると、20ポイント近く上昇した。進路指導に関しては、保護者からの肯定的回答が4年連続で上昇し、8割を超えるようになった。今後も入試改革に伴う指導を含め、多岐にわたる進路指導の充実に努めたい。</p> <p>【学校運営】</p> <p>いじめや教育相談体制についての肯定的な回答は生徒・保護者とも3年前に比べ、生徒で16.1%・保護者23.9%上昇した。全教職員がベクトルを合わせ一人ひとりの生徒が安全で安心してしっかりと学べる環境づくりに取り組んでいる成果であると考え、引き続きこの姿勢で取り組んでいきたい。</p> <p>保護者への連絡ツールである「まちこみメール」の利用(保護者)については、3年前に比べ、10ポイント以上上昇しているものの、今年度、利用度は伸びていない。更なる利用につなげるため、まちこみメールの活用とホームページの情報更新を積極的に行なっていきたい。</p> <p>「会議の内容が教育活動や学校運営に生かされている」「各種会議が、教職員間の意思疎通や意見交換の場として有効に機能している」(教職員)の肯定的回答がともに5ポイント低下している。教職員間の意思疎通や意見交換が十分に行える環境づくりに取り組むことが今後の課題のひとつである。</p>	<p>学校教育自己診断</p> <p>アンケート結果より肯定的回答の割合が年々上昇している項目が多いことから、日々丁寧に取り組んでいることがよくわかる。生徒へのアンケートで学校に行くことが楽しいという項目が年々上昇していることが何よりも素晴らしい。生徒保護者の信頼を得られると思う。このような学校の取り組みについて広報活動を通してもっと外に発信してみたい。</p> <p>第3回(令和2年2月10日 月 )</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断や授業アンケートの結果をみると、保護者・生徒の満足度が上昇している。先生方の丁寧な指導、きっちりとした対応によって生徒が落ち着いて学校生活を送ることができていることがよくわかる。</li> <li>・保護者にとって行かせたい学校とは、学校での基本的な生活(学習面も含め)が確立できているかどうか、その学校に魅力があるかどうかの2点にあると思う。前者については、しっかりとできているので、今後は、学校の良さや魅力をアピールする部分をもっと磨いてほしい。</li> <li>・「これが美原高校である」という魅力づくりに注力してほしい。</li> <li>・多様化する保護者のニーズや生徒の変化に対応して指導していくことの難しさを感じている。今後ともこの学校に入ってよかったと感じてもらえるように尽力してもらいたい。</li> <li>・近隣の学校でも公立高校への志願者数が減少していることが話題となることがあると聞いている。学校だけでなく、私たちも様々な機会を通して学校の教育活動の成果を伝え、理解を深められるようにしている。</li> </ul>
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力と「学び」への主体性の育成	<p>(1)基礎学力の向上と定着をめざした授業改善の取組み</p> <p>ア 生徒実態に応じた「わかる授業」「主体的で対話的な深い学び」の展開</p> <p>イ 新学習指導要領を見据えたカリキュラムマネジメントへの組織的な取組みと教員力の向上</p> <p>(2)図書館の環境整備とその利活用の促進</p> <p>ア 図書館利用を促進する環境整備</p> <p>イ 図書館を活用した主体的で対話的な学びの定着</p>	<p>(1)</p> <p>ア・習熟度別少人数展開授業(1年・英語、数学)の実施やICTを活用した個別学習等により、基礎学力の定着を図るとともに学習を大切にすることを育む。</p> <p>・SPI-コンテストや少人数展開授業(3年・国語、英語)等により、進路実現に向けて自己表現力の伸長を図る。</p> <p>・グループワークやプレゼンテーション等「主体的で対話的な深い学び」となる授業研究をすすめ、授業改善の取組みを推進する。</p> <p>イ・「評価と指導の一体化」の観点を踏まえた公開授業・研究授業・授業アンケート結果の分析を行い、新学習指導要領を見据えた授業改善を図るとともに、経験年数の少ない教員を中心に他校種の授業見学を実施し、教員力の向上をめざす。</p> <p>(2)</p> <p>ア 学習に利用できる書籍の拡充(地域の図書館との連携も含む)やICT環境の整備</p> <p>イ 調べ学習や探究活動等図書館を活用した授業(グループワーク・調べ学習・探究活動)の推進</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断「勉強することは大切」(H30...77%)「少人数によるきめ細やかな指導」(H30...64%)昨年以上に</p> <p>・少人数展開授業での生徒満足度を高める H30 満足度(1年数学74%、英語86%、3年国語93%英語85%)</p> <p>・授業アンケートでの「授業の様子」の評価の平均を昨年度の水準以上に「(H30...3.3)</p> <p>イ・全教員3回以上授業見学できるよう、公開授業月間(2回)を設ける。また、授業改善に係る研修(2回以上)を実施する。</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「教え方の工夫」(H30...73%)「授業はわかりやすい」(H30...69%)を昨年度以上に</p> <p>(2)</p> <p>ア 一年間の増加蔵書数(H30...456冊)</p> <p>・公立図書館からの団体貸出数(H30...30冊)</p> <p>イ 図書館利用数並びに貸出数を昨年以上に (H30...2078人[うち授業461人]・526冊)</p>	<p>(1)</p> <p>ア・「勉強は大切」(81%)、「少人数指導」(72.1%)と昨年水準を上回った。引き続き取り組んでいきたい。</p> <p>・各教科で「主体的・対話的」な授業が展開されるようになった。引き続き自己表現力や情報活用能力を高める授業づくりを進めていきたい。 1年数学(79%)・英語(90%)3年国語(98%)英語(95%) 図書館を利用した授業回数66回</p> <p>・今年度の授業アンケートでの「授業の様子」の平均3.46。この3年間の授業改善の取組みの結果、0.2ポイント上昇しており、取組みの成果を生徒が実感している姿が窺える。次年度も継続して取り組んでいきたい。</p> <p>イ・授業見学や研修・授業アンケートの分析など、授業改善の取組み(公開授業週間・研修)は計画通り進めることができた。 ・「教え方の工夫」(79%)「授業のわかりやすさ」(72%)、授業アンケートの結果と併せて、生徒の授業に対する評価は上がっている。引き続き教員の授業力向上に努めたい。</p> <p>(2)</p> <p>ア・学び直しができるデジタル教材の導入や蔵書数や地域の団体貸し出しにより、利用促進できる環境を整えることができた。 (蔵書数593冊増、団体貸し出し・180冊)</p> <p>イ・グループワーク・調べ学習など授業での利活用を含め、図書館利用者が大きく伸長した。(利用者数...5365人(うち授業での活用66回2435人、貸出数933冊))</p>
2 生徒支援体制の整備と充実化	<p>(1)キャリア教育、人権教育の推進</p> <p>ア 3年間を見通したキャリア教育による進路実現</p> <p>(2)「厳しく寄り添う」姿勢を貫いた生徒指導の実践</p> <p>ア 生活習慣の確立と豊かな人間性の涵養をめざした生徒指導</p>	<p>(1)</p> <p>ア・「総合的な探究の時間」等で自己の在り方生き方を考える機会を設ける。3年間を見通した計画に基づき進路指導の充実に図り、早い段階から具体的な進路目標を持たせる取組みを推進する。1年生から職業に関する講話や体験の機会を設けるなどにより、進路に対する認識や学習意欲を高め、目的意識を持った高校生活を送ることができるようガイダンスや進路講習等を充実させる。</p> <p>(2)</p> <p>ア・全教職員がベクトルを合わせ一人ひとりの生徒が安全で安心してしっかりと学べる環境を維持・発展させる。(登下校指導、遅刻指導、校内巡回等)</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校斡旋就職1次内定率昨年以上に(H30...93%)、第一希望の大学・短大・専門学校等への進路実現率を昨年度以上に(H30年度91%)</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「進路についての適切な指導を受けられる」肯定度(H30...75%)を昨年以上に</p> <p>(2)</p> <p>ア・遅刻回数(校務処理システムによる遅刻カウント数)一人平均1.2回以内をめざす(H30...1.2)</p>	<p>(1)</p> <p>ア・今年度は現役で薬学部合格する生徒も出るなど、生徒の多様な進路選択を実現できる取組みをすすめることができた。 第1次内定率86%、第一希望の進路実現率97%</p> <p>・「適切な進路指導」(82%)と、1年次から3年間を見通した計画的なキャリア教育の推進の成果が肯定度の向上につながっているのではないかと。引き続き「総合的な探究の時間」等を活用しながら、キャリア教育の推進に努めたい。</p> <p>(2)</p> <p>ア・日々の取組みの結果、一人当たりの遅刻回数1.2と、昨年度同様、少ない状況である。この水準を維持していきたい。</p>

府立美原高等学校

<p>2 生徒支援体制の整備と充実化</p>	<p>(3) 個に応じた支援体制の充実 ア 学校生活を送るうえで、様々な課題を抱えた生徒の支援の充実</p> <p>(4) 生徒の自己有用感の醸成 ア 生徒の主体的な活動の充実</p> <p>イ 体育専門コースの充実</p>	<p>・生活習慣確立をめざす取り組みを実施する。 ・いじめアンケートの実施や SNS をめぐる問題の学習などを通して、生命の尊さへの気づきや思いやりの心など豊かな人間性を育む教育を実践する。</p> <p>(3) ア・学習においてさまざまな困り感を抱える生徒に対する支援を情報共有しながら、組織として学習を支援する体制を整える。 ・支援会議を教育相談の中心に位置づけ、生徒一人ひとりへの細やかな対応を行うことにより、不登校等を減少させる。</p> <p>(4) ア・体育大会、文化祭等生徒が主体的に企画・運営・参画する行事を充実させる。 ・部活体験の実施(1年全員)など、あらゆる機会を通じて部活動を顕彰する。 ・地域中学生参加による部活動大会(美高杯)、中学生対象の部活動体験等を生徒が企画、運営することにより、生徒の達成感や自己有用感を醸成する。</p> <p>イ・特色ある授業を展開することにより、体育専門コースをめざす生徒を増やし、達成感を醸成する。</p>	<p>・生徒向け学校教育自己診断における「生活指導」に関する肯定的意見、昨年以上に(H30...64%) ・生徒向け学校教育自己診断における「人権」に関する肯定度、昨年以上に(H30...80%)</p> <p>(3) ア・支援会議の開催数(H30...25回) ・学校教育自己診断における「親身に相談に応じてくれる教員がいる」生徒・保護者の肯定度、昨年以上に(H30...生徒68%,保護者66%)</p> <p>(4) ア・生徒の学校行事に対する満足度、前年度を上回る(H30年度75%)  ・新入生の部活動加入率50%以上(H30年度56%) ・美高杯参加中学校・人数、昨年以上に(H30年度3種目26校656名)</p> <p>・学校教育自己診断における「部活動はさかん」肯定度(生徒58%、保護者67%)を昨年以上に</p> <p>イ・体育専門コース選択生の満足度を昨年以上に(H30...2年生94%,3年生100%)</p>	<p>・生活指導の肯定度(70%)、「学校は生活指導をきっちり行っている」(生徒86%・保護者88%)と生活指導に対する理解してもらっている姿が窺える。今後も継続して取り組んでいきたい。 ・肯定度は昨年と同水準(R1...81%)であったが、3年前と比較すると、肯定度は10ポイント以上あがっている。</p> <p>(3) ア・開催数(30回)、就労支援や学習支援など、配慮の必要な生徒の支援についての議論を深め、実行することができた。 ・「親身に相談できる教員」の肯定度、生徒・保護者とも73%と昨年度を上回った。今後とも相談体制の充実に努めたい。</p> <p>(4) ア・学校行事の満足度は77%であった。生徒が積極的・主体的に参画できる学校行事となるよう、その運営に工夫をしていきたい。 ・新入生入部率(43%)であった。入部率を高める方策を検討・実施していきたい。  ・美高杯は3つのクラブ(サッカー・バスケ・バレーボール)で実施し、延べ24校・447人が参加した。夏季休業中に実施した種目については、環境条件等を考慮して、実施時期の検討が必要である。 ・「部活動はさかん」の肯定度は生徒(59%)・保護者(68%)とも昨年とほぼ同水準であった。部活動の活性化に向けた新たな取り組みを検討し、実施していきたい。 イ・体育コースの満足度は(2年94%、3年100%)であった。今年度は災害時の避難場所を想定した校内での野外実習を実施した。次年度より実践的な実習となるよう検討していきたい。</p>
<p>3 地域と連携した安全・安心で、魅力のある学校づくり</p>	<p>(1) 広報活動を強化し、学校の魅力の発信 ア 広報活動のさらなる充実</p> <p>イ ICT等を活用した情報提供</p> <p>(2) 地域と連携した取り組みの推進 ア 地域と連携した生徒の自主的な活動の推進 イ 安全・安心を高める取り組みの推進</p> <p>ウ PTA等と連携した教育環境整備</p> <p>エ 国際交流・国際理解教育の推進</p> <p>オ 外部人材の活用等による職員の時間外労働時間の縮減</p>	<p>(1) ア・旧7学区以外の中学校への広報活動を実施するとともに近隣中学校との連携を強め、美原をめざす生徒を増加させる。</p> <p>イ・HPを随時更新することで、本校の取り組み等を発信し、広報に努めるとともに、メール配信等により、保護者へ迅速(非常変災時の対応など)かつ適切な情報提供を行う。</p> <p>(2) ア・地域の各種イベントへの参加や協力等を通じて、生徒の自己有用感を高める。</p> <p>イ・PTAや地域の外部機関等と連携しながら、生徒の安全や安心を高める取り組みをすすめる。(熱中症対策や防犯・防災、交通安全、心肺蘇生、薬物乱用防止等)</p> <p>ウ・PTAと連携した校内緑化活動の実施 ・PTAや同窓会等と連携した教育環境整備の推進</p> <p>エ・地域の国際交流協会を推進する団体等と連携した国際理解教育の推進 ・生徒の海外語学研修を実施する。</p> <p>オ・日頃から職員間の意思疎通やコミュニケーションの活性化を図りつつ、外部人材の活用や業務分担の見直し等により職員の業務負担の平準化・効率化や軽減を図る。</p>	<p>(1) ア・学校説明会の参加者数・満足度(H30年度参加者830人うち地域・学校は600人、満足度95%)、近隣の中学校訪問4回以上</p> <p>イ・HPのアクセス数、昨年以上に(H30...約30000件) ・保護者の学校教育自己診断における「HP・メール」利用度、昨年以上に(H30...66%) 保護者向けメール配信回数昨年度以上(H30...92)</p> <p>(2) ア・地域のイベント等への生徒参加回数・人数(H30...4回・62人)を昨年以上に</p> <p>イ・自転車の交通事故件数の減少(H30年度38件)</p> <p>ウ・学校教育自己診断「施設・設備」の満足度(H30...生徒53%、保護者55%)を昨年以上に</p> <p>エ・学校教育自己診断「国際理解教育」の肯定度(H30...生徒69%、保護者66%)の向上</p> <p>オ・職員の平均時間外労働時間を前年以下の水準に</p>	<p>(1) ア近隣の中学校訪問は一部回数を縮減したところもあったが、校内の説明会の参加者は10%増加し、満足度も昨年同様95%であった。(参加者は866人(うち地域・学校664人))</p> <p>イ・アクセス数31000と昨年を上回った。今後も更新内容の充実化、メール配信と連動させる等により、迅速かつ適切な情報提供に努めていきたい。 ・HPと連動させた情報発信を行ったこともあり、配信回数(57回)保護者の利用度(65%)とも昨年を下回った。メールのアンケート機能を活用し、利用度を高める取り組みを進めていきたい。</p> <p>(2) ア・ア新たにボランティア活動に取り組む生徒もおり、地域のイベントへの参加やボランティア活動、保健研究発表など外部での活動に取り組む生徒が増えた。(9回127人)</p> <p>イ・外部機関と連携し、交通安全を含め安全安心を図る取り組みを進めることができた。「傘なし」運動を年間通して実施。交通事故は軽微なものが多かったが、件数は減らなかった。関係機関等連携しながらより効果的な取り組みを考えていきたい。(52件)</p> <p>ウ・PTA・同窓会からの支援も得ながら、学習や学校行事、部活動活性化のための整備をすすめることができた。「施設・設備」満足度...生徒、保護とも昨年より5%上昇。</p> <p>エ・今年度も地域の国際交流協会やJICA等と連携した国際理解教育を実施できた。 ・今年度も他の府立高校と合同でのオーストラリア海外語学研修(参加者4人)・JICA等と連携した国際理解学習を実施した。アンケート実施後の取り組みもあったが、「国際理解教育」の肯定度は微増であった。(生徒70%、保護者67%)</p> <p>オ 組織改編により、職員の業務分担の軽減・平準化には一定の効果がみられたが、平均時間外労働の大幅な縮減には必ずしも直結していない状況である。今年度、働き方改革や事務負担軽減の観点からICTを活用した会議を試行実施した。今後とも、時間外労働時間の縮減に向けた取り組みを進めていきたい。</p>